

ホットニュース Hot News

◎「**暮らしに役立つ本**」の棚を紹介します

中央図書館の入り口近くにある本棚をご存じでしょうか。図書館スタッフは「暮らしの棚」と呼んでいます。

料理・手芸・医療・育児・フラワーアレンジメントなど、暮らしに役立つ本を1カ所にまとめています。「食欲の秋」などの季節のイベントに合わせた特集展示も開催しています。



▲暮らしの棚

暮らしのお悩みをスッキリ解決!の手助けになれるよう担当一同頑張っています。気軽にお出掛けできない日々が続きますが、おうち時間が楽しくなるような本もたくさん揃えています

ので、図書館にお越しの際は「暮らしの棚」もぜひご覧ください。



▲暮らしの棚にあるレシピ本など

オスナの本



絶対に行けない世界の非公開区域99
ダニエル・スミス/著 日経ナショナルジオグラフィック社
世界には絶対に足を踏み入れることのできない土地や施設があります。どこにあるか、知りたくありませんか？



紳士とオバケ氏
たかどのほうこ/作 フレーベル館
マジノマジヒコは、とても真面目な紳士。ある夜、超テキトーなオバケの同居人がいたことが発覚!どうする?マジノさん!

History Inquiry Club **其の218**
歴史探訪クラブ

文化財課(博物館) ☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127

博物館HP 博物館Instagram




◆**渥美の国学者 井本常蔭**

井本常蔭は、安永5(1776)年、大垣新田藩の郡奉行であった井本敦高の長男として亀山村に生まれました。寛政11(1799)年、父の敦高が52歳で病没するとその家督を相続し、父と同じ大垣新田藩の郡奉行として畠村陣屋(現在の福江公園)に通勤しました。祖父も大垣新田藩の地方役人であり、親子三代にわたり藩主戸田家に武士として仕えました。

父の敦高(免孔※)や叔父の徳義(為蝶※)は、杜国と芭蕉の百回忌を催行するなど、俳諧・華道・茶道にも通じ、この地方に多大な影響を与えた文化人でした。

寛政10(1798)年10月27日、常蔭は23歳で遠州(湖西)の夏目麿齋とともに、国学者として著名な伊勢松阪の本居宣長に入門し、享和元(1801)年3月10日に、はじめて本居宣長を訪問して、短冊に書かれた句などを献上しました。しかしながら同年9月に宣長が逝去すると、常蔭はその子に改めて師事し、また、子の失明後に本居家の家督を相続(寛政11年)して

いた宣長の養子とも親交しました。これらの交流の証となる書簡が渥美郷土資料館に保管されています。こうして常蔭は、三遠の国学者や多くの歌人らと広く交流し、自らの研究を深めました。

常蔭は、父や叔父の影響により、和歌にも精通していました。隣村(伊良湖村)の漁夫歌人糟谷磯丸を見出し、その磯丸に熱心に文字や和歌を指導し、「磯丸」という名を与え、磯丸の生涯の師となりました。

和歌や国学に優れた常蔭は、その他の学問や武道にも秀でた才能を持っていました。寛政11年には、『柳剛流』という剣術の切紙(初級免許状)を取得したほどでした。

文化10(1813)年6月、享年38歳の若さで病没した常蔭は、父と同じ亀山村にあった桂島庵の墓地に葬られました。
※俳人としての名
(学芸員 天野敏規)



▲常蔭の墓(亀山町・桂島庵墓地)